

2019(令和元)年度
全国私立中学高等学校
全国私学教育研究集会栃木大会
実 施 案 内

人間力(コンピテンシー)を高める私学教育



会 期 2019(令和元)年10月17日(木)・18日(金)の2日間

会 場 ホテル東日本宇都宮(栃木県宇都宮市)

主催 一般財団法人日本私学教育研究所

実施 関東地区私立中学高等学校協議会／栃木県私立中学高等学校連合会

後援 栃木県／宇都宮市／日本私立中学高等学校連合会

も く じ

ご案内	1
大会役員等一覧	2
実施概要	4
全体集会	6
記念講演	7
栃木県私立学校活動紹介	8
部会のご案内	9
1 私学経営部会	10
2 教育課程部会	12
3 法人管理事務運営部会	14
4 進路指導部会	16
5 生徒指導部会	18
6 特色教育（ICT）部会	20
運営委員・専門委員・客員研究員一覧	22
会場のご案内	24
参加（大会・教育懇談会）申込みと参加費の納入について	25
宿泊の申込みについてのご案内	26
参加申込書	
教育懇談会及び宿泊申込書	

※本実施案内中の中学校と高等学校の併設校の学校名の表記につきましては、
「〔学校名〕 中学高等学校」として掲載しておりますのでご了承下さい。

ご 案 内

2019（令和元）年度の「全国私学教育研究集会栃木大会」は、『人間力（コンピテンシー）を高める私学教育』を研究目標に、10月17日（木）・18日（金）の2日間、宇都宮市のホテル東日本宇都宮を会場として開催致します。

初日の全体集会では、記念講演として、栃木県出身でロシア文学を現代的に読み解いている名古屋外国語大学学長／東京外国語大学名誉教授・前学長の亀山郁夫先生をお迎えし、『「人生百年時代」を生きる力』と題してご講演を頂きます。

また、日本私立中学高等学校連合会と一般財団法人日本私学教育研究所より「教育政策と私学情勢について」と題して、中央情勢報告及び今後の私学教育への取組み等をお届けする予定です。

2日目は、私立学校の運営及び教育の柱となる6つの部会を設置し、それぞれの現状に即し、実践に役立つテーマを設定しました。

栃木県は、平成11年に登録された世界文化遺産「日光の社寺」（二荒山神社、東照宮、輪王寺の二社一寺）、室町時代にザビエルが西欧に「日本最大の坂東の大学」と紹介した日本最古の学校「足利学校」、また宇都宮市では昨年日本遺産に選定された「大谷石文化」等の文化・歴史があります。さらに、食のオアシスとしても、50年連続生産量日本一の「とちぎのいちご」は、「とちおとめ」・「スカイベリー」のブランドで売り出され、また、「餃子」「和牛」「そば」等、自然の豊かさや県民のおもてなしの心でつくられた美味しいものであふれていますので、是非ご賞味下さい。

全国から多くの先生方にご参加を頂き、交流を深め、栃木の歴史・文化の一端にも触れて頂き、未来の私学教育の発展に寄与する大会となることを祈念し、ここにご案内申し上げます。

2019（令和元）年5月

全国私学教育研究集会栃木大会

実行委員長 堀 井 基 章

（関東地区私立中学高等学校協議会 会長）

副実行委員長 船 田 元

（栃木県私立中学高等学校連合会 会長）

大会役員等一覧 (順不同)

1. 大会役員

吉 田 晋	一般財団法人日本私学教育研究所 富士見丘中学高等学校	理事長 理事長・校長
平 方 邦 行	一般財団法人日本私学教育研究所 工学院大学附属中学高等学校	副理事長 校長
山 中 幸 平	一般財団法人日本私学教育研究所 学校法人山中学園	副理事長 理事長
中 川 武 夫	一般財団法人日本私学教育研究所 蒲田女子高等学校	理事・所長 顧問
長 塚 篤 夫	一般財団法人日本私学教育研究所 順天中学高等学校	理事・全国集会総括責任者 校長
鈴 木 康 之	一般財団法人日本私学教育研究所 水戸女子高等学校	理事・全国集会副総括責任者 理事長・校長

2. 実行委員

委員長 堀 井 基 章	関東地区私立中学高等学校協議会 学校法人堀井学園	会長 理事長
副委員長 船 田 元	栃木県私立中学高等学校連合会 作新学院中等部・高等学校	会長 学院長・校長
鈴 木 康 之	茨城県私学協会 一般財団法人日本私学教育研究所 水戸女子高等学校	会長 理事・全国集会副総括責任者 理事長・校長
野 口 秀 樹	群馬県私立小・中・高等学校協会 樹徳中学高等学校	会長 理事長・校長
小 川 義 男	(一社)埼玉県私立中学高等学校協会 狭山ヶ丘高等学校附属中学校・狭山ヶ丘高等学校	会長 校長
佐久間 勝 彦	(一社)千葉県私立中学高等学校協会 千葉経済大学附属高等学校	会長 理事長・校長
工 藤 誠 一	(一財)神奈川県私立中学高等学校協会 聖光学院中学高等学校	理事長 理事長・校長
須 賀 英 之	栃木県私立中学高等学校連合会 宇都宮短期大学附属中学高等学校	副会長 校長
中 川 武 夫	一般財団法人日本私学教育研究所 蒲田女子高等学校	理事・所長 顧問
長 塚 篤 夫	一般財団法人日本私学教育研究所 順天中学高等学校	理事・全国集会総括責任者 校長

3. 運営総括委員

委員長

須賀 英之 宇都宮短期大学附属中学高等学校 校長

副委員長

永井 治寿 青藍泰斗高等学校 校長

青木 一男 國學院大學栃木中学高等学校 校長

五味田 謙一 矢板中央高等学校 校長

上野 一典 宇都宮文星女子高等学校 校長

菅井 康政 足利大学附属高等学校 校長

岡部 宣男 白鷗大学足利高等学校 校長

渡邊 明男 佐野日本大学高等学校 校長

実施概要

- 1 研究目標 人間力（コンピテンシー）を高める私学教育
- 2 会 期 2019（令和元）年10月17日（木）・18日（金）の2日間
- 3 会 場 [ホテル東日本宇都宮](#)
- 4 募集人員 600名
- 5 参加対象 都道府県私学協会加盟の私立中学校・高等学校・中等教育学校の教職員
- 6 基本日程

	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
						45	05	30		50	
10月17日 (木)				受 付	開 会 式	全 体 会				教育 懇談会	
						※	報 告	記 念 講 演			
10月18日 (金)	部 会			昼 食	部 会			開 会 式	※は栃木県私立学校 活動紹介		

（注）部会日程につきましては、部会によっては、若干異なる場合がございます。
詳細は各部会実施概要をご覧ください。

7 全 体 会

栃木県私立学校活動紹介 「箏 曲 演 奏」

宇都宮海星女子学院中学高等学校 箏曲部

報 告 「教育政策と私学情勢について」

日本私立中学高等学校連合会 会 長 吉 田 晋

一般財団法人日本私学教育研究所 所 長 中 川 武 夫

記念講演 「『人生百年時代』を生きる力」

名古屋外国語大学 学 長

東京外国語大学 名誉教授・前学長 亀 山 郁 夫

8 部 会

1 私学経営部会

(募集人員 160名)

新しい時代に求められる学校マネジメント
～多様化する教育と私学の独自性～

2 教育課程部会

(募集人員 150名)

未来社会を切り拓く私学教育の実践

3 法人管理事務運営部会

(募集人員 60名)

私学から発信する働き方改革

4 進路指導部会

(募集人員 70名)

主体的・協働的学習からの人間力育成を目指す進路指導

5 生徒指導部会

(募集人員 70名)

学校を取り巻く関係機関との連携による生徒指導

6 特色教育（ICT）部会

(募集人員 90名)

コンピテンシーを高める ICT 教育
～AI 時代に対応した人材の育成を目指して～

9 参 加 費 15,000円（宿泊費・教育懇談会費は含みません。）

10 参加申込 本案内の25ページを参照頂き、9月27日（金）までに参加申込みをお願いします。

11 問 合 先 一般財団法人日本私学教育研究所
「全国私学教育研究集会栃木大会」担当
〒102-0073 東京都千代田区九段北 4-3-8 市ヶ谷 UN ビル 6 階
TEL 03 (3222) 1621 FAX 03 (3222) 1683
ホームページ <http://www.shigaku.or.jp/>

●傷害保険について

本大会期間中の参加者等の傷害保険には、加入致しませんのでご承知おき下さい。

教育懇談会

日時：10月17日(木) 17時50分～19時30分

会場：ホテル東日本宇都宮 3階 大和

参加費 8,000円

※参加をご希望の方は、25ページ「参加(大会・教育懇談会)申込みと参加費の納入について」をご覧ください。

全 体 集 会

- 1 日 時 2019 (令和元) 年 10 月 17 日(木) 13 時 00 分～17 時 00 分
- 2 会 場 ホテル東日本宇都宮 3階 大 和
- 3 開 会 式 13 時 00 分～13 時 30 分
 - (1) 開会のことば
 - (2) 主催者挨拶
 - (3) 実行委員長挨拶
 - (4) 来賓祝辞
 - (5) 次期開催地区代表挨拶
 - (6) 閉式のことば
- 4 全 体 会 13 時 45 分～17 時 00 分

栃木県私立学校活動紹介

「箏 曲 演 奏」

宇都宮海星女子学院中学高等学校 箏曲部

報 告 「教育政策と私学情勢について」

日本私立中学高等学校連合会 会 長 吉 田 晋
一般財団法人日本私学教育研究所 所 長 中 川 武 夫

記念講演 「『人生百年時代』を生きる力」

名古屋外国語大学 学 長
東京外国語大学 名誉教授・前学長 亀 山 郁 夫

※私立学校活動紹介及び記念講演の録画・録音・写真撮影は禁止とさせていただきますので
ご了承下さい。

「『人生百年時代』を生きる力」

亀山 郁夫 <かめやま いくお>

名古屋外国語大学学長／

東京外国語大学名誉教授・前学長

プロフィール



栃木県生まれ。東京外国語大学外国語学部ロシア語学科卒業。東京大学大学院人文科学研究科博士課程単位取得退学、天理大学助教授、同志社大学助教授、東京外国語大学助教授、教授、附属図書館長等を経て、学長に就任。現在は名古屋外国語大学にて学長を務める。また、専攻のロシア文学を活かし、数多くのロシア文学作品の翻訳に携わり、文学者としても活躍している。代表作の中でも『破滅のマヤコフスキー』（1998）で第8回木村彰一賞、『磔のロシアースターリンと芸術家たち』（2002）で第29回大佛次郎賞、フョードル・ドストエフスキー著『カラマーゾフの兄弟』（2007）の翻訳で第61回毎日出版文化賞特別賞・プーシキン賞、『謎解き「悪霊」』（2012）で第64回読売文学賞 研究・翻訳賞を受賞した。（名古屋外国語大学 HP 参照）

最近の代表的著作 ※新刊(☆)

☆『白痴』（ドストエフスキー著・光文社古典新訳文庫・2015-2018・全4巻）翻訳

☆『ショスタコーヴィチとスターリン』

（ソロモン・ヴォルコフ著・慶應義塾大学出版会・2018）共訳

☆『ショスタコーヴィチ 引き裂かれた栄光』（岩波書店・2018）

『ロシア革命 100年の謎』（河出書房新社・2017）共著

『ゴルバチョフに会いに行く』（集英社・2016）

『世界が終わる夢を見る』（名古屋外国語大学出版会・2015）

『新カラマーゾフの兄弟』（河出書房新社・2015）小説

『そうか、君はカラマーゾフを読んだのか。』（小学館・2014）

『ドストエフスキー『罪と罰』切り離された者たちへ

（NHKテレビテキスト 100分de名著）』（NHK出版・2013）

『新訳 地下室の記録』（ドストエフスキー著・集英社・2013）翻訳

栃木県私立学校活動紹介



学校法人宇都宮海星学園 [宇都宮海星女子学院中学高等学校](#)

設置学科（女子校）

普通科

建学の精神 校訓：真理と愛に生きる

本校は福者マリー・ド・ラ・パシオン師によって創立された、「マリアの宣教者フランシスコ修道会」が1954年に開校したカトリック学校。「真理と愛に生きる」を校訓として、キリスト教の人間観に基づいて一人ひとりを尊重し、人間の全領域にわたる教育を行っている。生徒指標は謙虚・清純・明朗・自律。



教育目標

キリスト教の「愛」に学び、学院の保護者聖母マリアの姿を理想とした女性の育成を目指す。いつの時代にあっても変わることのない価値観を学び、良き家庭人・良き社会人・良き国際人として、正しい価値判断ができる「高い教養と品格のある女性の育成」に努める。



箏曲部

本校箏曲部は、人の心に響く音と曲想を追求し、中学生と高校生が切磋琢磨しながら、講師の和久文子先生のご指導を仰ぎ活動をしている。放課後の部活動では、ひとり一人が曲への思いを込めて丁寧に練習し、合奏では互いのパートを聴き互いの音と思いを理解しながら、どのような難曲にも挑戦してきた。

これまでには、中学生が全国小・中学校箏曲コンクールに8度出場し、金賞を5度、銀賞を1度受賞。高校生は全国高等学校総合文化祭に11度出場し第2位にあたる文化庁長官賞を3度、ベスト8にあたる優良賞を3度受賞した。また、県内外の大会や演奏会、講演会や研究大会などの開会式などでも演奏の機会を頂いている。

基より、音楽とは音を楽しむもの、私たちが楽しみながら奏でる音と曲想で、邦楽ならではの華やかさと力強さそして楽しさをお伝えできるよう、これからも活動していきたい。



部会のご案内

1 私学経営部会

新しい時代に求められる学校マネジメント
～多様化する教育と私学の独自性～

2 教育課程部会

未来社会を切り拓く私学教育の実践

3 法人管理事務運営部会

私学から発信する働き方改革

4 進路指導部会

主体的・協働的学習からの人間力育成を目指す進路指導

5 生徒指導部会

学校を取り巻く関係機関との連携による生徒指導

6 特色教育（ICT）部会

コンピテンシーを高める ICT 教育
～AI 時代に対応した人材の育成を目指して～

各部会の日程、内容等については次ページ以降に掲載しています。
参加ご希望の部会を申込書記入欄にご記入の上、お申し込み下さい。
なお、募集定員に達しましたら締め切りとなる場合がありますので、予め
ご了承下さい。

1 私学経営部会

研究目標

新しい時代に求められる学校マネジメント ～多様化する教育と私学の独自性～

私学は、各学校が建学の精神のもと独自の人材育成を行うことで社会の発展に貢献するとともに、社会的地位を確立してきた。しかし、現代は急速なグローバル化や科学技術の驚異的な発展により、予測不可能な時代と言われ、教育においても、これからの子供たちには基礎学力を前提とした思考力・判断力・表現力を育成することが求められている。さらに2020年には大学入試に新しい制度が導入され、新学習指導要領も年次進行で施行されるなど、日本の教育は大きく様変わりしようとしている。これまでも独自性を保ちつつ時代のニーズに应运きた私学が、いまだかつてないこれらの変化にどのように対応すべきかを、今こそ真剣に考えなければならない。

当部会では、新たな時代に臨むにあたり、私学としてこれまで継承し、今後も大切に守っていくべきものと、時代の要請に応じて変革していかなければならないものを選び分け、進むべき道を模索する契機となるよう、建学の精神を柱に、働き方改革・カリキュラムマネジメントと私学のスクールリーダーシップに焦点を当て、これからの学校マネジメントのあり方を探っていきたい。

1 募集人員 160名

2 参加対象 理事長、校長、副校長・教頭、事務長またはこれらに準ずる管理職

3 日程

時間 月日	9	10	11	12	13	14	15	16
	15	30						45
10月18日 (金)	開 会 式	講演Ⅰ	講演Ⅱ	昼食	パネル・ディスカッション			閉 会 式

4 内 容

講演Ⅰ

演 題 「人間力を育む私学教育と建学の精神」

講 師 船 田 元 作新学院中等部・高等学校 学院長・校長

講演Ⅱ

演 題 「データに基づく学校改革：働き方改革からカリキュラムマネジメントまで」

講 師 中 原 淳 立教大学経営学部 教授（人材開発・組織開発）
ビジネスリーダーシッププログラム 主査
リーダーシップ研究所 副所長

パネル・ディスカッション

テーマ 「新しい時代に求められる学校マネジメント
～多様化する教育と私学の独自性～」

パネリスト

元 兼 正 浩 九州大学大学院人間環境学研究院 教授・副研究院長

広 石 英 記 東京電機大学工学部 教授
学校法人東京電機大学 教育改善推進室長
日本 PBL 研究所 理事

上 野 憲 示 文星芸術大学附属中学高等学校 理事長・中学校長
文星芸術大学 名誉学長

コーディネーター

鈴 木 康 之 水戸女子高等学校 理事長・校長

5 講師・パネリストプロフィール

中 原 淳

立教大学経営学部教授（人材開発・組織開発）。立教大学経営学部ビジネスリーダーシッププログラム（BLP）主査、立教大学経営学部リーダーシップ研究所 副所長などを兼任。博士（人間科学）。

北海道旭川市出身。東京大学教育学部卒業、大阪大学大学院 人間科学研究科、メディア教育開発センター（現・放送大学）、米国・マサチューセッツ工科大学客員研究員、東京大学講師・准教授等を経て、2018 年より現職。「大人の学びを科学する」をテーマに、企業・組織における人材開発・組織開発について研究している。

単著（専門書）に『職場学習論』（東京大学出版会）、『経営学習論』（東京大学出版会）。一般書に『研修開発入門』、『駆け出しマネジャーの成長戦略』、『アルバイトパート採用育成入門』など、他共編著多数。研究の詳細は、Blog : NAKAHARA-LAB.NET (<http://www.nakahara-lab.net/>)。

Twitter ID : nakaharajun

民間企業の人材育成を研究活動の中心に置きつつも、近年は、横浜市教育委員会との共同研究など、公共領域の人材育成についても、活動を広げている。一般社団法人 経営学習研究所 代表理事、特定非営利活動法人 Educe Technologies 副代表理事、認定特定非営利活動法人カタリバ理事、認定特定非営利活動法人フローレンス理事、学校法人河合塾教育イノベーション本部研究顧問。

元 兼 正 浩 これから求められるスクールリーダーシップを校長の専門職基準（日本教育経営学会）から考える（仮）

九州大学教育学部卒業、同大学院博士後期課程修了、九州大学助手、福岡教育大学講師・助教授、九州大学大学院人間環境学研究院助教授・准教授を経て、九州大学大学院人間環境学研究院教授、副研究院長、現在に至る。

研究関心領域は、①教職員人事行政研究、②校長職の法社会学研究、③自治体教育政策研究、④日韓スクールリーダー養成、⑤学校経営コンサルティング。

著書・編著に『解説教育六法 2019』編集（三省堂・2019）、『教育経営ハンドブック』編著（学文社・2018）、『専門職としての校長の力量形成』編著（花書院・2016）、『次世代スクールリーダーの条件』単著（ぎょうせい・2010）など。

広 石 英 記 私立学校の強みを活かしたカリキュラムマネジメントの展望

熊本県出身。早稲田大学大学院文学研究科教育学専攻修士課程修了。慶應義塾大学大学院社会学研究科教育学専攻博士課程単位取得満期退学。東京電機大学工学部人間科学系列講師、助教授を経て、2003 年より教授、現在に至る。

現在、学校法人東京電機大学教育改善推進室長、慶應義塾大学文学部非常勤講師、日本 PBL 研究所理事を務める他、2019 年より一般財団法人日本私学教育研究所特別招聘研究員。

専攻は教育学（教育哲学、教育方法学）。著書に『教育方法論』、『経験の意味世界をひらく』など。PBL（プロジェクト学習）型総合学習を核としたカリキュラムマネジメントや私立学校のカリキュラムデザイン、カリキュラムマネジメントなどを研究。特に、PBL に関する論文が多数。大学、高等学校などの教育改革、カリキュラム改善、PBL のデザインなどに関して、FD 講師を務める。

2 教育課程部会

研究目標

未来社会を切り拓く私学教育の実践

グローバル化・高度情報化の進展、人工知能の飛躍的な進化、少子高齢化と人口減少の本格化など、生活環境や社会構造が急激かつ大きく変化する時代を迎えている。この激しい変革の時代に、自らの主体性を堅持し、多様な人々と価値観を共有し、生涯にわたって学び続け、ともに未来を力強く生きていく人間を育てる教育が求められている。

そして、文部科学省では新学習指導要領において、義務教育段階から一貫して「学力の3要素」である学びに向かう力・人間性の涵養、生きて働く知識・技能の習得、未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等の育成を掲げ、高大接続や大学入学者選抜、大学教育にいたるまで一体的な改革を推し進めている。

これまで、私立学校は「建学の精神」に基づき、個性豊かな教育を実践し、多くの有為な人材を世に送り出してきた。新しい時代に向かい、私学ならではの特色ある「社会に開かれた教育課程」と魅力ある学校づくりに取り組んでいかなければならない。

当部会では、2022年度実施に向けて具体化される高等学校学習指導要領改訂を踏まえ、より良い社会を作るという目標を掲げた学校教育の軸となる教育課程の意義や役割を再認識し、生徒一人ひとりの資質・能力を育むことを目指しての講演や実践発表を行う。部会プログラムを通して、なお一層の私学教育の充実が図られ、生徒が未来社会を切り拓く一助になれば幸いである。

1 募集人員 150名

2 参加対象 理事長、校長、副校長・教頭、教務主任、教育課程編成等担当教員

3 日程

時間 月日	9	10	11	12	13	14	15	16
	15		45					45
10月18日 (金)	開 会 式	講演Ⅰ		講演Ⅱ	昼食	実践発表Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ		閉 会 式

4 内 容

講演Ⅰ

演 題 「新学習指導要領・大学入試改革を踏まえた教育課程編成」

講 師 水 原 克 敏 尚絅学院大学 特任教授

講演Ⅱ

演 題 「大学入試改革を踏まえた主体的・対話的で深い学びを実現する授業と評価のすがた」(仮)

講 師 益 川 弘 如 聖心女子大学現代教養学部教育学科 教授

実践発表Ⅰ (千葉県)

テーマ 「アクティブ・ラーニング×ICT×HR＝？」

～3年間の研究・実践から見えたもの～

発表者 笹 尾 弘 之 市川高等学校 教諭

実践発表Ⅱ (東京都)

テーマ 「学びへ向かう力を育てる探究学習～高校生の卒業論文作成～」

発表者 齋 藤 祐 中央大学附属中学高等学校 教諭

実践発表Ⅲ (栃木県)

テーマ 「アクティブ・ラーナー育成～未来を紡ぐ「力」を手にするために～」

発表者 岩 崎 浩 士 佐野日本大学高等学校 教諭

5 講師プロフィール

水 原 克 敏

宮城教育大学卒業。東北大学大学院教育学研究科を単位修得退学、教育学部助手、講師、助教授を経て1994年教育内容講座教授、2000年大学院教育学研究科の教授学習科学講座教授、2008年教育設計評価講座教授、2012年より早稲田大学教育・総合科学学術院教育学研究科特任教授。1989年に論文「近代日本教員養成の確立過程」で教育学博士号を取得。研究テーマは、よい教師はどのようにして養成されるのか、また、学校のカリキュラムはいかにあるべきか。

日本教育学会、日本教師教育学会、日本教育方法学会等の理事、日本カリキュラム学会代表理事・顧問、かつ宮城県及び仙台市と文部科学省等の委員などを歴任。東北大学学校ボランティアを組織して社会貢献。国際的な活動としてモンゴル国の教育政策顧問、カリキュラム指導、新モンゴル学園理事。

著書に、『近代日本教員養成研究－教育者精神主義の確立過程』（風間書房 1989）、『現代日本の教育課程改革』（同 1992）、『近代日本カリキュラム政策史研究』（同 1997）、『学習指導要領は国民形成の設計書』（東北大学出版会 2010、2018）、『戦後改革期文部省実験学校資料集成』Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ（不二出版 2015～2018）『自分－私がわたしを創る－』（2001 東北大学出版会）、『自分－わたしを拓く－』（2003 同）、(2)『学校を考えるっておもしろい！！』（2006 同）などがある。

益 川 弘 如

博士（認知科学）。中京大学情報科学部認知科学科助手、静岡大学大学院教育学研究科准教授を経て2017年4月より現職。専門は学習科学、認知科学、教育工学。主体的・対話的で深い学びによって卒業後に必要となる資質・能力をいかに育むか、効果的な授業づくりとそれと連動した大学入試等のあり方について実証的に研究を進めている。文部科学省中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会情報ワーキンググループ委員、静岡県総合教育センター研究顧問などを歴任。主な著書・訳書として、「21世紀型スキルー学びと評価の新たなかたち」「学びのデザイン：学習科学」などがある。

3 法人管理事務運営部会

研究目標

私学から発信する働き方改革

日本の教育は今、大きな転換期を迎えている。それは生徒達の日々の教育に関わる大学入試改革や ICT 教育の導入だけでなく、現場で働く教職員の働き方に関わる大きな変革の流れである。2019 年 4 月に働き方改革関連法が施行され、社会全体で働き方の見直しが進められており、学校現場もその例外ではない。部活動等により長時間化する教職員の勤務の見直しとその管理や ICT 導入による事務の省力化なども含め、さまざまな改革が必要となる。教職員はワーク・ライフ・バランスを保ち、個人の時間をより充実したものとし、人間力を高めて現場に生かしていくことが求められている。これからの教育現場における優秀な人材確保のためにも、全国から集まった参加者が叡智を出し合い、働き方改革に向けた取り組みに関する情報や考え方を共有し、私学から学校教育における教職員の働き方改革を発信していくことを目指したい。

- 1 募集人員 60 名
- 2 参加対象 理事、事務局長、事務長、校長、副校長・教頭等管理職、教務・事務担当教職員

3 日 程

時間 月 日	9	10	11	12	13	14	15	16
	15		45	45	15	30	30	
10 月 18 日 (金)	開 会 式	講演 I	事例発表	昼食・ 情報交換会	講演 II	報告	閉 会 式	

4 内 容

講演 I

演 題 「私立学校教員の労務管理～専門職とブラック化のジレンマ～」(仮)

講 師 坂 田 仰 日本女子大学教職教育開発センター 教授

講演 II

演 題 「少子化時代の部活動のあり方」(仮)

講 師 嶋 崎 雅 規 国際武道大学体育学部 教授

報 告

テーマ 「これからの部活動のあり方」(仮)

発表者 揚 村 洋一郎 東海大学付属大阪仰星高等学校中等部・高等学校
校長

事例発表

テーマ 「デジタルキャンパス構想」

発表者 安 藤 昇 元佐野日本大学中等教育・高等学校
ICT 推進担当室長

情報交換会（兼昼食）

グループに分かれ、参加者同士で情報交換を行います。

※名刺をご持参下さい。

5 講師プロフィール

坂 田 仰

立命館大学卒業。大阪府立和泉工業高等学校教諭(社会科)、東京大学大学院法学政治学研究科公法専攻修士課程、同博士課程を経て、日本女子大学に専任講師として赴任、准教授を経て、現在、日本女子大学教職教育開発センター教授、放送大学客員教授。専門分野は教育法制論（教育裁判の研究）。著書に、『裁判例で学ぶ 学校のリスクマネジメント』（時事通信社）、『イラストと設題で学ぶ 学校のリスクマネジメントワークブック』（時事通信社）、共著『補訂第3版 図解・表解教育法規』（教育開発研究所）がある。

嶋 崎 雅 規

1985年早稲田大学第一文学部文学科日本文学専修卒業。同年帝京中学・高等学校非常勤講師（国語科）となり、翌年より同校教諭。同時にラグビー同好会を立ち上げ、翌年部に昇格、以後29年間ラグビー部の指導にあたる。教員時代には、全国高等学校体育連盟研究部常任委員、東京都高体連研究部委員長・ラグビー専門部常任委員などを務める。2000年4月より2年間、筑波大学大学院体育研究科体育方法学専攻（体育・スポーツ経営学）で学ぶ。修士論文のテーマは「複数校合同運動部活動を検証する」。2015年4月より現職。著書に、『よくわかるスポーツマネジメント』（共著）、『運動部活動の理論と実践』（共著）、『日本のスポーツ界は暴力を克服できるか』（共著）がある。

4 進路指導部会

研究目標

主体的・協働的学習からの人間力育成を目指す進路指導

新学習指導要領では、『主体的・対話的で深い学び』が明確に示され、コンピテンシーが重視されている。コミュニケーション能力の必要性がさらに進み、高い次元での『対話力』が教師にも生徒にも、求められる。また、国立大学での推薦・AO入試枠の拡大や、「大学入学共通テスト」での外部英語検定試験の導入等の高大接続改革は、高校での進路指導のスケジュールに大きく影響し、「低学年での希望進路の明確化」に重点を置いた指導が求められている。

一方で、AIの発達は我々の想像をはるかに超えて進化を続け、生徒は、将来の社会を予想することが困難になっている。そのため、従来の学習指導、職業研究を重視した進路指導から、「学びたい学問」を重視した進路指導への転換が求められている。

そこで、当部会では、Society5.0とも呼ばれる新たな時代を担う生徒たちを育むキャリア教育や、情報化・グローバル化の時代の進路指導を、ベネッセコーポレーションによる最新の教育事情とともに、日本最古の大学である足利学校の教えの中からヒントを見つけることで考えていきたい。

- 1 募集人員 70名
- 2 参加対象 理事長、校長、副校長・教頭、進路指導主任、進路指導担当教員
- 3 日程

時間 月日	9	10	11	12	13	14	15	16
	15	45				30	45	
10月18日 (金)	開 会 式	基調講演Ⅰ	事例発表 Ⅰ	昼 食	基調講演 Ⅱ	事例発表 Ⅱ	閉 会 式	

4 内 容

基調講演Ⅰ

演 題 「教育・入試改革に向けた進路指導ストーリー～全国の実践事例より～」

講 師 渡 邊 慧 信 (株)ベネッセコーポレーション
学校カンパニー 教育情報センター長

基調講演Ⅱ

演 題 「足利学校の教育について」

講 師 市 橋 一 郎 史跡足利学校 研究員

足利学校は、日本で最も古い学校として知られ、その遺跡は大正10年に国の史跡に指定されている。

足利学校の創建については、奈良時代の国学の遺制説、平安時代の小野篁説、鎌倉時代の足利義兼説などがあるが、歴史が明らかになるのは、室町時代の永享11年(1439)関東管領・上杉憲実(うえずぎのりざね)が、現在国宝に指定されている書籍を寄進し、鎌倉円覚寺から僧・快元(かいげん)を招いて初代の座主(しょうしゅ=校長)とし、足利学校の経営にあたらせるなどして学校を再興してからである。足利学校は、応仁の乱以後、引き続く戦乱の中、学問の灯を絶やすことなくとし続け、学徒三千といわれるほどに隆盛し、天文18年(1549)にはイエズス会の宣教師フランシスコ・ザビエルにより「日本国中最も大にして、最も有名な坂東の大学」と世界に紹介された。江戸時代の末期には「坂東の大学」の役割を終え、明治5年に幕をおろしましたが、廃校直後から有志による保存運動が展開されるなど、郷土のシンボル、心のよりどころとして足利学校の精神は市民の中に連綿として生き続け、平成2年の復原完成へとつながり、教育の原点、生涯学習の拠点として、新しい学びの心の灯をともしています。

事例発表Ⅰ (栃木県)

テーマ 「探究を軸とする進路指導～SSH を生かして～」

発表者 青 木 凡 枝 白鷗大学足利高等学校 指導教諭

事例発表Ⅱ (栃木県)

テーマ 「文部両道による AO 入試対策の指導」 ☆「部」は部活動の意

発表者 岩 崎 陸 宇都宮短期大学附属高等学校 指導教諭

5 講師プロフィール

渡 邊 慧 信

1982 年広島県生まれ。2005 年株式会社ベネッセコーポレーション入社。

学校支援担当者としてアセスメント結果分析を基に高等学校の課題解決をサポート。

2015 年営業本部へ異動。教材改訂企画の推進、汎用性のある『資質・能力』に関する共同研究の立ち上げなどを行う。

2017 年より学校カンパニー教育情報センター長。大学入試に関する情報収集・分析を基に、今後の入試改革の方向性について情報発信を行う。これまで 600 校以上の学校を訪問し、教育改革に向かう学校の実践事例を収集、これからの学校教育のあり方を問うメッセージを発信している。

市 橋 一 郎

足利市生まれ。足利市教育委員会で長年文化財保護行政に携わり、退職後に専修大学大学院に入学、歴史・考古学を学ぶ。2012 年後期博士課程を修了、博士（歴史学）号を取得。その後、3 年間専修大学非常勤講師を務める。現在、史跡足利学校事務所研究員を務めながら、足利市内の文化財の保護活動や調査研究を行っている。足利市文化財愛護協会会長、足利市文化財専門委員会副委員長、足利市世界遺産検討会議メンバー、群馬県館林市文化財保護審議会委員、館林市歴史文化基本構想策定委員等に就いている。

論考は、「史跡足利学校跡について」『日本史の研究』223 号・2008 年 山川出版社、「足利学校の教学機能について」『日本史の研究』254 号・2016 年 山川出版社、「教育遺産としての史跡足利学校」『常総の歴史』第 39 号・2009 年 崙書房、「現行足利学校釋奠について」『研究紀要 学校』第 7 号・2009 年 足利市教育委員会、「将軍吉宗と足利学校所蔵書籍」『研究紀要 学校』第 14 号・2016 年 足利市教育委員会、「足利学校記録から見た中後期の近世足利学校の図書館機能」『研究紀要 学校』第 15 号・2017 年 足利市教育委員会、「足利の廃寺について」『足利の廃寺』2009 年・足利市文化財愛護協会、「鏝阿寺の歴史的変遷」『鏝阿寺本堂調査報告書』2011 年・鏝阿寺などがある。また、『角川地名辞典 栃木県』（1984 年・角川書店）、『日本古代史地名事典』（2007 年・雄山閣）、『近代足利市史』（1975～1979）、『館林市史』（2004～現在）、『足利市文化財総合調査報告』（1980～1986）などに参画。

5 生徒指導部会

研究目標

学校を取り巻く関係機関との連携による生徒指導

高校では、人間として調和のとれた育成を目指して、生徒の心身の発達の段階や特性に応じて教育活動を展開している。その中で、学級担任をはじめ教科担当や部活動顧問など、生徒に関わる教員は個々の生徒の状況に応じた指導方法の工夫をしてきた。また、校務分掌の各組織も専門的な知識を背景に生徒に働きかけを行ってきた。

しかし、学校単独では解決が困難な課題が増えている現状がある。心に問題を抱えた生徒へのスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーによる働きかけ、引きこもりがちな生徒への自立支援、ネット利用に起因したいじめや犯罪被害など、外部との連携が不可欠である。

当部会では、人間力を高めるために学校と家庭・地域・関係機関が緊密に連携を図り、組織的、継続的に生徒の支援に取り組んでいく生徒指導のあり方を考えていきたい。

- 1 募集人員 70名
- 2 参加対象 理事長、校長、副校長・教頭、生徒指導主任及び生徒指導担当教員
- 3 日程

時間 月日	9	10	11	12	13	14	15	16
	15	30					30	45
10月18日 (金)	開 会 式	基調講演Ⅰ	講演Ⅰ	昼食	基調講演Ⅱ	講演Ⅱ		閉 会 式

4 内 容

基調講演Ⅰ

演 題 「スクールカウンセラーとの連携」

講 師 丸 山 隆 栃木県カウンセリング協会 理事長

講演Ⅰ

演 題 「不登校ひきこもり支援における教育機関との連携」

講 師 中 野 謙 作 栃木県子ども若者・ひきこもり総合相談センター
「ポラリス☆とちぎ」 センター長

基調講演Ⅱ

演 題 「スクールソーシャルワーカーとの連携」

講 師 土 屋 佳 子 日本社会事業大学 客員准教授

講演Ⅱ

テーマ 「高校生のネット利用の現状と官民連携によるトラブル防止」

発表者 草 野 康 行 (株)スキット 第2サポートグループ

5 講師プロフィール

丸 山 隆

NPO 法人栃木県カウンセリング協会理事長、栃木県カウンセリングセンター代表を務める。臨床心理士で日本カウンセリング学会認定スーパーバイザー。

栃木県足利市出身。早稲田大学文学部心理学専修を卒業後、栃木県内の高等学校で社会科の教員として勤務、教育相談の実績を積まれた。

主な著書は、「心の扉をー相談室からのメッセージ」小学館スクウェア。「心晴れたりくもったりー相談室からのメッセージⅡ」小学館スクウェア。「新心晴れたりくもったりー相談室からのメッセージⅢ」下野新聞社。

土 屋 佳 子

日本社会事業大学災害ソーシャルワークセンター客員准教授・同大学専門職大学院非常勤講師。立教大学・早稲田大学非常勤講師。東京都都立高校自立支援チーム統括スーパーバイザー。福島県等スクールソーシャルワーカー・スーパーバイザー。東京都生涯学習審議会委員等。社会福祉士。

栃木県高根沢町において、文部科学省のスクールソーシャルワーカー活用事業が始まる前からスクールソーシャルワーカーとして活動。東日本大震災後は福島県にも赴任し、学校・地域での支援活動にあたる。

立教大学文学部教育学科卒。福島大学大学院修了（学校福祉臨床領域）。京都大学人間・環境学研究科博士課程在学中。スクールソーシャルワークに関する著書多数。

中 野 謙 作

1959 年、東京都生まれ。1995 年、高根沢町で学習塾を始める。1999 年、不登校・ひきこもり・非行やいじめに対応する「NPO 法人とちぎ教育ネットワーク」を設立。2003 年、高根沢町教育委員会教育委員を拝命。高根沢町フリースペース「ひよこの家」の設置運営に尽力。

2010 年、一般社団法人栃木県若年者支援機構を設立。2011 年、発達障害に特化した学習支援 ANDANTE 開校。2014 年、栃木県子ども若者ひきこもり総合相談センター「ポラリス☆とちぎ」受託。2015 年から生活困窮学習支援業を受託、現在 2 市 3 町で 250 人の学習支援を実施。2018 年、キッズハウスいそどり開設。官民連携を軸に切れ目のない支援を目指し、子どもや若者の SOS に対応し、日夜活動している。

草 野 康 行

2009 年度から、栃木県立学校（県立高等学校、県立高校附属中学校、県立特別支援学校）、宇都宮市小中学校、その他自治体・学校の依頼を受け、ネットいじめや事件・犯罪被害等から生徒を守るため、有害サイト及び個人情報の漏えいの早期発見・早期対応をするため、有害サイトの検索・監視・削除依頼を行うサービス「ネットいじめパトロール事業」を行っている。

またトラブル発生後の対応を行う相談窓口として、ネットトラブルコンサルティングも実施し合的なネットトラブル対策を行っている。

その上でネットパトロール事業者としての視点から教育現場の情報モラルの向上を図るために、栃木県立学校や栃木県内各自治体小中学校、栃木県内私立高等学校へネット上に潜む危険やトラブル等の事例を交えた講演・研修も行っている。

6 特色教育（ICT）部会

研究目標

コンピテンシーを高める ICT 教育 ～AI 時代に対応した人材の育成を目指して～

新学習指導要領では、情報活用能力が、言語能力などと並んで「学習の基盤となる資質・能力」と位置付けられた。また、ICT 機器をよく活用している学校ほど学力が高いことも「全国学力・学習状況調査」の結果等から示唆されている。したがって、これからの時代に生きる子どもたちを教育するに当たり、ICT を活用した取り組みに一層力を入れていかなければならないのは、言うまでもないことである。

しかし、AI(人工知能)がこれから急速に発展していくことを考えるとき、単に ICT が使いこなせるだけではなく、AI と対極にある分野、すなわち「人間ならではの」創造的分野においていかに各自の能力を開発していくか、すなわち ICT と調和したコンピテンシー（人間力）の育成に関して、どのように力を入れていくかということこそが、今後の大きな課題となるのではないだろうか。

当部会では、Society5.0 の実現に向けて社会が動き始めた今、AI 時代に対応した人材の育成とそのコンピテンシーを高めていく ICT 教育について考えていきたい。

- 1 募集人員 90名
- 2 参加対象 理事長、校長、副校長・教頭、ICT 担当教員
- 3 日程

時間 月日	9	10	11	12	13	14	15	16
	15	45					45	
10月18日 (金)	開 会 式	講演Ⅰ	講演Ⅱ	昼 食	実 践 発 表	パネル・ディスカッション		閉 会 式

4 内 容

講演Ⅰ

演 題 「22 世紀まで生きる子どもたちに必要な情報教育とは」

講 師 文部科学省担当官

講演Ⅱ

演 題 「アウトプットで授業が変わる」

講 師 平 井 聡一郎 (株)情報通信総合研究所
ICT リサーチ・コンサルティング部 特別研究員

実践発表

テーマ 「ドローン × マインクラフト × プログラミングの実践報告」

発表者 安 藤 昇 元佐野日本大学中等教育・高等学校
ICT 推進担当室長

パネル・ディスカッション

テーマ 「Society5.0 に備えた EdTech (エドテック) を活用した教育について」

パネリスト

平 井 聡一郎 (株)情報通信総合研究所
ICT リサーチ・コンサルティング部 特別研究員

横 山 北 斗 関東第一高等学校 教諭

石 嶋 洋 平 (株)ミスターフュージョン 代表取締役社長

コーディネーター

田 中 康 平 (株)NEL&M 代表取締役

★Society5.0：サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会（Society）。狩猟社会（Society 1.0）、農耕社会（Society 2.0）、工業社会（Society 3.0）、情報社会（Society 4.0）に続く、新たな社会を指すもので、第 5 期科学技術基本計画において我が国が目指すべき未来社会の姿として提唱された。

★EdTech（エドテック）：Education（教育）と Technology（技術）を組み合わせた造語であり、アメリカシリコンバレーを中心に導入の動きが起こっている。定義はさまざまで、テクノロジーを使って教育にイノベーションを起こす取り組みのことであり、「教育×IT」というキーワードも認知されている。すでに、次々とサービス化されている。

5 講師・パネリスト・コーディネータープロフィール

平 井 聡一郎

株式会社情報通信総合研究所 ICT リサーチ・コンサルティング部特別研究員。茨城県で公立小中学校教諭、教頭、校長、指導主事を経て、古河市教育委員会参事兼指導課長を最後に退職、一昨年より現職。文部科学省、総務省の ICT に関わる各種委員を歴任。現在、ICT 機器を活用した授業改革を目指し、全国でセミナー、ワークショップ、自治体および学校へのコンサルティングに取り組んでいる。

石 嶋 洋 平

株式会社ミスターフュージョン社長、東京花火大会制作委員会委員長。有名アーティスト、有名企業の Web マーケティングコンサルタントとして活躍。『子どもの才能を引き出す最高の学び プログラミング教育』をはじめとする多くのベストセラーを著作している。

田 中 康 平

株式会社ネル・アンド・エム代表取締役。教育情報化コーディネータ 1 級。佐賀県 ICT 利活用教育改善検討委員。九州 ICT 教育支援協議会会長。

経済産業省「未来の教室」実証事業では、教育コーチとして千代田区立麴町中学校における EdTech×探求型ワークショップの単元計画等の指導助言を担当。近年は、学主目標の検討や形成的評価等を踏まえた、ICT の活用と学習デザイン研修を各地で実施している。

運営委員・専門委員・客員研究員一覧 (順不同)

全体集会

●運営委員・指導員

委員長 永井 治 寿 青藍泰斗高等学校 校長	鳴原 佳奈 宇都宮海星女子学院中学高等学校 教諭
	高野 友喜 宇都宮海星女子学院中学高等学校 教諭
副委員長 佐々木 秀治 宇都宮海星女子学院中学高等学校 校長	小久保 貴子 宇都宮海星女子学院中学高等学校 教諭
	鈴木 友 青藍泰斗高等学校 教諭
石塚 千恵 宇都宮海星女子学院中学高等学校 教頭	村井 惇哉 青藍泰斗高等学校 教諭
池澤 敏英 青藍泰斗高等学校 教頭	大畠 秀子 作新学院中等部・高等学校 養護教諭

1 私学経営部会

●運営委員・指導員

委員長 青木 一男 國學院大學栃木中学高等学校 校長	舘野 弘行 文星芸術大学附属高等学校 教務部長
	星野 英雄 文星芸術大学附属高等学校 教諭
副委員長 大塚 晃 文星芸術大学附属高等学校 校長	土田 十 國學院大學栃木中学高等学校 教務主任
	中島 亨 國學院大學栃木中学高等学校 教諭
長岡 孝之 文星芸術大学附属中学校 副校長	小田 智巳 國學院大學栃木中学高等学校 教諭
千代野 仁 文星芸術大学附属高等学校 教頭	北川 嘉則 國學院大學栃木中学高等学校 教諭

●専門委員・客員研究員・指導員

委員長 長塚 篤夫 順天中学高等学校 校長	摺河 祐彦 兵庫県播磨高等学校 理事長・校長
	新田 光之助 筑陽学園中学高等学校 理事長・高校長
副委員長 鈴木 康之 水戸女子高等学校 理事長・校長	菅沼 宏比古 学校法人西海学園 理事長
實吉 幹夫 東京女子学園中学高等学校 理事長・校長	客員研究員 野原 明 文化学園大学杉並中学高等学校 名誉校長
木内 秀樹 東京成徳大学中学高等学校 理事長・校長	客員研究員 真城 義麿 学校法人真宗大谷学園 専務理事
梅村 光久 学校法人三重高等学校 理事長	

2 教育課程部会

●運営委員・指導員

委員長 五味田 謙一 矢板中央高等学校 校長	斎藤 雅之 足利短期大学附属高等学校 教頭
	福本 晴彦 矢板中央高等学校 教諭
副委員長 岡島 一浩 足利短期大学附属高等学校 校長	三根 直長 矢板中央高等学校 教諭
	近藤 靖男 足利短期大学附属高等学校 教諭
橋本 昭司 矢板中央高等学校 副校長	三田 敏子 足利短期大学附属高等学校 教諭
山崎 武 矢板中央高等学校 教頭	山本 晴一郎 足利短期大学附属高等学校 教諭

●専門委員・客員研究員・指導員

委員長 清水 哲雄 学校法人鷗友学園 理事長	客員研究員 助川 幸彦 蒲田女子高等学校 校長補佐
鈴木 弘 香蘭女学校中高等科 校長	客員研究員 山本 与志春 学校法人青山学院 院長
北村 聡 京都外大西高等学校 校長	
大多和 聡宏 開星中学高等学校 理事長・校長	

3 法人管理事務運営部会

●運営委員・指導員

委員長 上野 一典 宇都宮文星女子高等学校 校長	馬場 友治 宇都宮文星女子高等学校 事務長
	嶋 森 広 樹 学校法人佐野日本大学学園 法人事務局次長
副委員長 小倉 宏明 佐野日本大学中等教育学校 校長	五月女 行徳 学校法人宇都宮学園 法人事務局
	関 英 一 佐野日本大学中等教育学校 総務課主任
竹村 憲夫 宇都宮文星女子高等学校 教頭	中島 史子 佐野日本大学中等教育学校 教諭
船渡川 重幸 佐野日本大学中等教育学校 教頭	佐藤 美由紀 宇都宮文星女子高等学校 教諭

●専門委員・客員研究員・指導員

委員長 工藤 誠一 聖光学院中学高等学校 理事長・校長	川島 英和 学校法人川島学園 理事長
野尻 富太郎 学校法人芝学園 常務理事・事務局長	客員研究員 正村 幸雄 学校法人鹿児島学園 理事長
服部 泰啓 学校法人信愛学園 理事長	

4 進路指導部会

●運営委員・指導員

委員長 岡部 宣男 白鷗大学足利高等学校 校長	武藤 幸祝 白鷗大学足利高等学校 教諭
	太田 貴宏 白鷗大学足利高等学校 教諭
副委員長 萩原 俊和 宇都宮短期大学附属高等学校 教頭	熊倉 誠一 宇都宮短期大学附属高等学校 教諭
	野澤 隆幸 宇都宮短期大学附属高等学校 教諭
須藤 敏哉 白鷗大学足利高等学校 教頭	川井 英太郎 宇都宮短期大学附属高等学校 教諭
青木 凡枝 白鷗大学足利高等学校 教諭	永井 美帆 宇都宮短期大学附属高等学校 教諭

5 生徒指導部会

●運営委員・指導員

委員長 菅井 康政 足利大学附属高等学校 校長	鈴木 昇 足利大学附属高等学校 教諭
	西牧 宏之 足利大学附属高等学校 教諭
副委員長 佐山 泰朗 佐野清澄高等学校 校長	芥川 至 足利大学附属高等学校 教諭
	近田 達規 佐野清澄高等学校 教諭
馬場 敏彦 足利大学附属高等学校 教頭	久保 暢雄 佐野清澄高等学校 教諭
村松 宏教 佐野清澄高等学校 教頭	石渡 隆二 佐野清澄高等学校 教諭

6 特色教育（ICT）部会

●運営委員・指導員

委員長 渡邊 明男 佐野日本大学高等学校 校長	町田 裕之 佐野日本大学高等学校 教諭
	和田 茂樹 佐野日本大学高等学校 教諭
副委員長 竜の口 法子 幸福の科学学園中学高等学校 校長	駒場 俊太 佐野日本大学高等学校 事務
	小椋 一徳 幸福の科学学園中学高等学校 教諭
片岡 哲哉 佐野日本大学高等学校 教頭	木村 靖法 幸福の科学学園中学高等学校 教諭
小泉 真琴 幸福の科学学園中学高等学校 教頭	三浦 紘幹 幸福の科学学園中学高等学校 教諭

会場（ホテル東日本宇都宮）のご案内



〒320-0013 栃木県宇都宮市上大曾町 492 番地 1 TEL.028-643-5555 (代) FAX.028-643-5213

※車で JR 宇都宮駅から約 10 分、東武宇都宮駅から約 15 分

※バスで JR 宇都宮駅西口バスターミナル 5 番乗り場から「大曾十文字」下車、徒歩 5 分

- 西方向に競輪場通り/県道 10 号線を進んで宇商通りに向かい、大曾 2 丁目（交差点）を左折して 宇商通り/県道 10 号線 に入り、前方右側です

送迎バスの案内について

JR 宇都宮駅東口から東日本ホテル宇都宮まで無料送迎バスを利用できます。

下記の時間帯で運行しますのでご利用下さい。

●10 月 17 日(木) 11 時 30 分～13 時 15～20 分間隔で運行

●10 月 18 日(金) 8 時～9 時 15～20 分間隔で運行

※バスは乗車人数が満員になった場合は時間にかかわらず発車致します。

研修会終了後も無料送迎バスを利用できます（東日本ホテル宇都宮から JR 宇都宮駅東口）。

●10 月 17 日(木) 17 時 15 分～17 時 45 分 19 時 45 分～20 時 30 分

●10 月 18 日(金) 16 時～17 時

時間帯によっては乗り切れない場合もございますので、お待ち頂く場合がございます。

参加(大会・教育懇談会)申込みと参加費の納入について

大会参加申込みについて

参加希望者は、別紙「全国私学教育研究集会栃木大会参加申込書」に必要事項を記入し、下記送付先に FAX にて 9 月 27 日(金)【必着】までにお送り下さい。

注①：2 日間のご参加を原則としておりますが、やむを得ず全体集会のみに参加する場合は、「全体集会のみ」に○印を記入して下さい。(大会参加費は変わりません。)

注②：部会によっては、募集定員を超えた場合は締め切らせて頂く場合がございますので、希望する部会は必ず第 2 希望まで○印を記入して下さい。

【大会参加費の納入について】

(1)大会参加費は、お一人 **15,000 円** です。(10 月 18 日の昼食費が含まれます。)

(2)申込み受付後 2 週間以内に「関係書類送付先」の方に参加者全員分の参加確認証と併せて請求書・払込票をお送り致します。受付内容と費用をご確認の上、ご送金下さい。大会参加費は指定のコンビニエンスストアでお支払い頂けます。(振込み手数料は無料です。)

教育懇談会参加申込みについて

(大会参加費には教育懇談会費は含まれておりません。)

教育懇談会への参加を希望する場合は「全国私学教育研究集会栃木大会参加申込書」の「教育懇談会」欄に「○」をご記入下さい。

【教育懇談会費の納入について】

(1)教育懇談会費は、お一人 **8,000 円** です。

(2)大会参加確認証等をお送りする際、教育懇談会参加確認証をお送り致します。教育懇談会費は大会参加費と合算してまとめて 1 枚の請求書・払込票をお送り致します。(大会参加費と教育懇談会費を分けて請求を希望される場合は、その旨を参加申込書にご記入下さい。)

宿泊の申込み

(大会参加費には宿泊費は含まれておりません。)

「宿泊の申込みについてのご案内」(p.26～27)をお読み頂き、JTB ビジネスネットワーク全国私学教育研究集会受付デスクにお申込み下さい。

【9 月 27 日(金)締め切り】

参加申込み後のキャンセルについて

(大会及び教育懇談会)

大会への参加申込み後の変更・キャンセルについては、必ず FAX にて下記にご連絡下さい。(FAX 送信後、こちらから確認の連絡がない場合は、電話にてご確認下さい。)

大会参加費・教育懇談会費のご返金・キャンセル料等は下記にて取扱いますのでご了承下さい。

10 月 10 日(木)まで	事務手数料 1,000 円を差し引いた参加費を返金致します。
10 月 11 日(金)以降 及び 無断欠席	返金はできません。 ※大会資料等の発送をもって代えさせていただきます。 ※大会参加費・教育懇談会費の振込みをされていない場合でも、キャンセル料として全額分(15,000 円・8,000 円)を申し受けます。 ※天変地異や自然災害によるキャンセルの場合は、状況により対応致しますので、ご相談下さい。

個人情報の取り扱いについて

当研究所では、参加者の個人情報は、厳重に管理・保護の上、その取り扱いについては、法令その他の規範を遵守し、細心の注意を払います。参加申込書にご記入頂く個人情報は、参加確認証及び大会参加のために必要な書類の送付、参加者名簿の作成、当研究所の研修会開催等情報の送付、また何らかの理由で大会の参加者に連絡する必要が生じた場合のみに利用致します。

■ 参加申込書送付及びお問い合わせ先

一般財団法人日本私学教育研究所 「全国私学教育研究集会栃木大会 事務局」

(担当：石田／青木／田淵)

〒102-0073 東京都千代田区九段北 4-3-8 市ヶ谷 UN ビル 6 階

電話 03-3222-1621 FAX 03-3222-1683

宿泊の申込みについてのご案内

この度は、「全国私学教育研究集会栃木大会」が宇都宮市にて開催されますことを心よりお喜び申し上げます。

大会の開催にあたり、ご参加の皆様の宿泊の斡旋を株式会社 JTB 教育第一事業部にて取扱いをさせて頂くことになりました。今大会の成功を祈念し、皆様のご参加を心よりお待ちしております。

【1】宿泊の申込みについて

①下表の宿泊代金は一泊朝食付き税・サービス料込みのお一人様の料金です。

②ご希望ホテルが満室の際は、代案ホテルをご提示させていただきます。あらかじめ申込書には第2希望までのご記入をお願い致します。また、予約が集中した際はご希望に添えない場合があります。その際は代案をご提示致しますので予めご承知おき下さい。禁煙・喫煙のご希望にも添えない場合もございます。（早期にお申込みを頂いた方から優先させていただきます）

利用ホテル名	部屋タイプ	料金（お一人様）	申込記号
チサンホテル宇都宮 (JR宇都宮駅西口から徒歩1分)	シングル	9,900円	A
ホテルサンロイヤル宇都宮 (JR宇都宮駅から徒歩1分)	シングル	7,700円	B
ホテルサンシャイン宇都宮 (JR宇都宮駅から徒歩3分)	シングル	12,000円	C
APA HOTEL & RESORTS 宇都宮駅前 (JR宇都宮駅から徒歩3分)	シングル	12,500円 ※10/16,17泊のみ	D
ホテルサンルート宇都宮 (JR宇都宮駅から徒歩1分)	シングル	11,550円	E
宇都宮東武ホテルグランデ (東武宇都宮駅から徒歩5分)	シングル	12,650円	F
ホテル丸治 (東武宇都宮駅から徒歩3分)	シングル	8,800円	G
ホテル・ザ・セントレ宇都宮 (東武宇都宮駅から徒歩5分)	シングル	8,800円	H-1
	ツイン (1名利用)	14,300円	H-2
	ツイン (2名利用)	7,700円	H-3

※ホテルによっては早期に満室になることがございます。ご希望に添えない場合はご了承下さい。

【2】申込み方法について

- ①宿泊のお申込みは、「宿泊申込書」に必要事項をご記入の上、2019年9月27日(金)までに、JTB ビジネスネットワーク全国私学教育研究集会受付デスクまで FAX(03-5396-8140)にてお申込み下さい。
- ②お申込みの FAX を受領後、書面、もしくはお電話にて予約可否の連絡をさせていただきます。
- ③申込み締切後、10月1日(火)から順次「宿泊予約確認証」・「請求書」を発送致します。
- ※お申込みの FAX を受領後 JTB からの連絡は、上記の可否回答以外には致しませんので予めご承知おき下さい。

【3】お支払い方法について

- ①宿泊予約確認証・請求書が届き次第、お振込みにてお支払い下さい。
(振込み手数料はお客様にてご負担下さいますようお願い申し上げます)
- ②宿泊代金をホテルで直接精算することはできません。

【4】変更・取消しについて

- ①大変お手数ですが、FAX(03-5396-8140)にてご連絡をお願い致します。
- ②取消料金は下記をご参照下さい。

宿 泊	取消日	7日～3日前	2日～前日	当 日	無 連 絡
	取消料	30%	40%	50%	100%

【5】申込み・問合わせ先

【申込み・問合わせ先】

JTB ビジネスネットワーク全国私学教育研究集会受付デスク

〒170-0013 東京都豊島区東池袋 3-23-14 ダイハツ・ニッセイ池袋ビル 7F

TEL : 03-5949-1358 / FAX : 03-5396-8140

※営業時間：月～金／9:30～17:30（土・日・祝日は休業）

2019（令和元）年度 全国私学教育研究集会栃木大会 参加申込書

申込み締切日：9月27日（金）

申込書 送付・ 送信先	一般財団法人日本私学教育研究所「全国私学教育研究集会栃木大会事務局」宛 TEL03-3222-1621 FAX：03-3222-1683（FAX 送付状は不要です。） 郵便：〒102-0073 東京都千代田区九段北 4-3-8 市ヶ谷UNビル 6 階
-------------------	---

2019年 月 日

都道府県名		学校（法人）名		
学校所在地	〒 (郵便番号は必ずご記入下さい。)			
	TEL	FAX		
関係書類送付先	所属・職名		氏 名	

◆すべての参加者の参加確認証および参加費の請求書・払込票は一括して「関係書類送付先」宛にお送りします。
（学校所在地欄に記載の住所にお送りします。） ※記入のない場合はNo.1 に記載の参加者にお送りします。

日私 教研 記入欄	No.	ふりがな	(職 名) 性 別	参加希望部会		教育懇談会 ※参加(有料)を希 望する場合は○を 記入して下さい。
		氏 名		※希望する部会の第1・2希望をそれぞれ○で囲んで下さい。会場の収容人数等により第2希望になる場合がございますのでご了承下さい。		
	1		() 男・女	第1希望 私学経営 教育課程 法人管理事務運営 進路指導 生徒指導 特色教育(ICT) 全体集会のみ	第2希望 私学経営 教育課程 法人管理事務運営 進路指導 生徒指導 特色教育(ICT) 全体集会のみ	
			() 男・女	第1希望 私学経営 教育課程 法人管理事務運営 進路指導 生徒指導 特色教育(ICT) 全体集会のみ	第2希望 私学経営 教育課程 法人管理事務運営 進路指導 生徒指導 特色教育(ICT) 全体集会のみ	
			() 男・女	第1希望 私学経営 教育課程 法人管理事務運営 進路指導 生徒指導 特色教育(ICT) 全体集会のみ	第2希望 私学経営 教育課程 法人管理事務運営 進路指導 生徒指導 特色教育(ICT) 全体集会のみ	
			() 男・女	第1希望 私学経営 教育課程 法人管理事務運営 進路指導 生徒指導 特色教育(ICT) 全体集会のみ	第2希望 私学経営 教育課程 法人管理事務運営 進路指導 生徒指導 特色教育(ICT) 全体集会のみ	
			() 男・女	第1希望 私学経営 教育課程 法人管理事務運営 進路指導 生徒指導 特色教育(ICT) 全体集会のみ	第2希望 私学経営 教育課程 法人管理事務運営 進路指導 生徒指導 特色教育(ICT) 全体集会のみ	

※参加者が6名以上の場合は、恐れ入りますが本用紙をコピーしてご使用下さい。なお、その際、上欄の学校名を各々に記載し、2枚目以降のNo.を6、7、・・・のように訂正して下さい。また、右欄（No.）に1、2、・・・のように番号を記入して下さい。

No.

No.（日私教研記入）

2019 (令和元) 年度 全国私学教育研究会栃木大会

【宿泊申込書】

〔 新規 ・ 変更 ・ 取消 〕 申込書 (該当に○を付けて下さい。)

申込先：JTB ビジネスネットワーク 全国私学教育研究会受付デスク 宛

2019 (令和元) 年 9 月 27 日 (金)

FAX No.03-5396-8140

〒

都 道 府 県

TEL:
FAX:

ご担当者氏名

学校・その他 ()

学校・その他 ()

緊急連絡先 (当日) 電話番号

宿 泊 ※宿泊関係確認書類は10月1日(火)から順次担当者様へ予約確認証・請求書等をお送りいたします。

No.	氏名 (ふりがな)	性別	禁煙・喫煙	宿 泊				同室希望者氏名 ※ツインルーム等1室2名以上での宿泊をご希望される方は同室の方の氏名をご記入下さい。			
				10/16(水)		10/17(木)			10/18(金)		
				第一希望	第二希望	第一希望	第二希望		第一希望	第二希望	
例	旅野 夢子 (たびの ゆめこ)	女	禁煙	×	×	A	C	×	×	(氏名) なし	(備考)
1	()										
2	()										
3	()										
4	()										
5	()										
6	()										
7	()										
8	()										

※申し込み受付の流れ

※9/27 まで

※10/1 から順次

「参加・宿泊予約確認証・請求書」受取

「宿泊予約確認証」をご持参下さい

「入金」

「ホテル受付」

「【受付・入力】」

「JTB より送付致します。」

(当日)

- ① ② ③ ④ ⑤ ⑥
- ご記入漏れ・お忘れにご注意頂き、必ず第2希望までご記入ください。FAXを受け取った後に確認の電話をさせて頂きます。
- 取消・変更の際は、この用紙に取消・変更箇所を記入して、FAXにてお送り下さい。
- 代金振込みの際の控え(明細書)をもつて、領収証の代わりとさせて頂きます。
- この宿泊申込書は、控えとして必ずお持ち下さい。
- 8名様以上ご一緒にお申し込みの場合は、この用紙をコピーしてお使い下さい。
- お預かりしました個人情報につきましては、当社の社内規定ならびに個人情報保護の法律に基づき、
- 宿泊予約に必要な場合のみ利用致します。
- 【JTB 記入欄】

表 左：華厳の滝と中禅寺湖（日光市）
 右上：史跡足利学校（足利市）
 右下：ジャパンカップサイクルロードレース
 （宇都宮市）

裏 左上から：茶臼岳（那須町）
 県花「ヤシオツツジ」
 右上から：いちご「とちおとめ」
 あしかがフラワーパーク（足利市）
 ぶどう（栃木市）
 いろは坂（日光市）

